

# データヘルス計画書（健保組合共通様式）

## 【参考事例】

計画策定日：平成 年 月 日

最終更新日：平成 年 月 日

愛鉄連健康保険組合

\* データヘルス計画書（健保組合共通様式）【参考事例】は、健康保険組合の皆様へデータヘルス計画の策定における手順を具体的にイメージしてもらい、計画策定を円滑に進めていただくためのものです。これらの計画書を参考にされる際には、以下の点についてご注意ください。

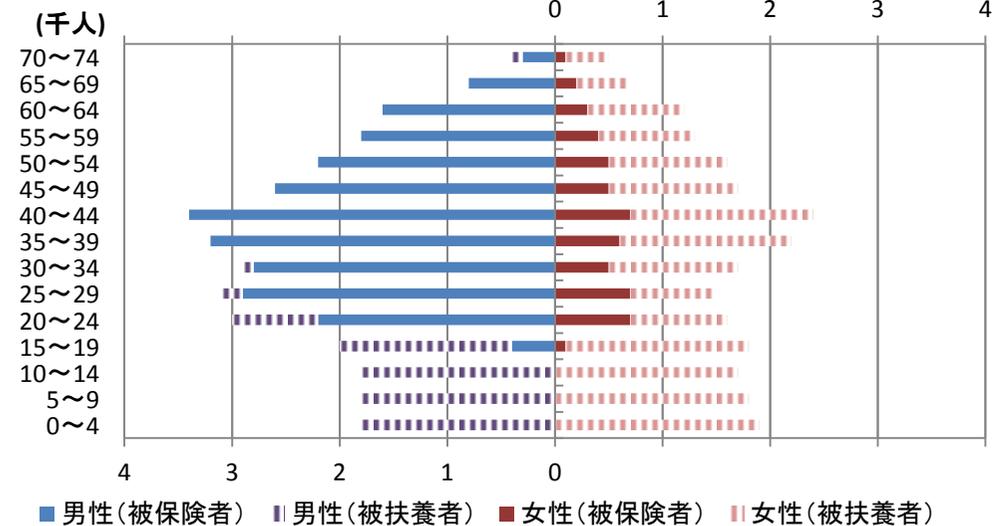
- (1) 事例は、それぞれの健康保険組合の形態や規模、加入者の属性のみでなく、これまで実施してきた取組等を踏まえて作成されていることから、特定の事例の記載内容を一律に模倣するのではなく、各健康保険組合の実情に応じた独自のデータヘルス計画を策定すること
- (2) 計画の策定に係る基本的な考え方についての理解を深めるために、「データヘルス計画の作成の手引き」等についても併せて参考にすること
- (3) 事例はすべての健康保険組合に先行して作成しているため、項目の記載時点は、入力用ツールに記載されている時点とは異なる場合があるが、計画書に記載すべき各記載項目の時点については、「データヘルス計画書（健保組合共通様式）に関する記載要領」等に則って入力すること
- (4) 成果目標（アウトカム）および事業量（アウトプット）目標ならびに事業目的の設定については、事例を参考としながら可能なかぎり自組合で評価可能な客観的な指標を用いること

## STEP 1 - 1 基本情報

「全健保組合共通様式」

組合コード	57555
組合名称	愛鉄連健康保険組合
形態	総合
被保険者数（平成26年度予算 注） * 特例退職被保険者を除く。	29,441名 男性81.6%（平均年齢41.2歳）* 女性18.4%（平均年齢40.3歳）*
特例退職被保険者数	0名
加入者数（平成26年度予算 注）	56,272名
適用事業所数	566カ所
対象となる拠点数	566カ所
保険料率（平成26年度 注）*調整を含む。	99.6%
	全体 被保険者 被扶養者
特定健康診査実施率（平成25年度）	72.8% 92.3% 29.5%
特定保健指導実施率（平成25年度）	38.8% 39.4% 27.3%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職 （平成26年3月末現在）	
		常勤	非常勤
健保組合	顧問医	0	0
	保健師等	1	0
事業主	産業医	0	0
	保健師等	0	0



(注) 記載要領参照

当組合の特性としては、加入事業所数が多いため、各事業所との関係が単一型と比較すると薄くなる傾向にあり、事業主と協働（コラボヘルス）しづらいうことや事業所別の健康状況や医療状況、優良事業所等（優先順位付け）の把握がしづらいことがあげられます。

また、現在の加入員年齢構成の場合、このままでは将来医療費の増加は避けられないと思われます。

保健事業費	予算額（千円）	被保険者一人当たり金額
	（平成26年度 注）	（円）
特定健康診査事業費	14,945	508
特定保健指導事業費	28,847	980
保健指導宣伝費	53,510	1,818
疾病予防費	418,128	14,202
体育奨励費	1,740	59
直営保養所費		0
その他		0
小計 …a	517,170	17,566
経常支出合計（千円） …b	14,296,405	
a/b×100（%）	3.62	

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

健保組合の取組															
予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因			
特定健康診査事業	1	特定健診(被保険者)	【目的】特定健診の受診率向上 【概要】愛健康サポート事業の[Step1]巡回事業所健診や人間ドック等で同時実施	被保険者	全て	男女	40	～	74	全員	17	【平成25年度】 受診者数：13,504人/14,633人中 受診率：92.3%	愛健康サポート事業の[STEP1]巡回事業所健診では、愛知県内を10以上の地区に分け、地区ごとに健診機関と契約を行っている。⇒1地区1健診機関制 この仕組みのおかげで、健診データは愛鉄連の統一フォーマット様式で全健診機関から提出される。	規模が10人未満の事業所では、毎年健診を受診する風土がない。(愛健康サポート事業の周知不足)	4
	1	特定健診(被扶養者)	【目的】特定健診の受診率向上 【概要】女性配偶者を対象とした共同巡回健診や人間ドック等で同時実施	被扶養者	全て	男女	40	～	74	全員	10,272	【平成25年度】 受診者数：1,939人受診/6,566人中 受診率：29.5% *案内リーフレット配付数 被扶養者：9,936人 (被扶養者全体の38.5%) 任継者：408人 計：10,344人 (うち40歳以上：7,505人)	被扶養者の特定健診受診者のほとんどは、共同巡回健診を受診した人である。それだけ、共同巡回健診は事業として有効である。	共同巡回健診の受診率を伸ばすことが、特定健診受診率向上につながる。健診の重要性の理解不足。女性配偶者の健診に対するコスト問題。隔年受診。	2
特定保健指導事業	3	特定保健指導	【目的】特定保健指導の利用率向上 【概要】・愛健康サポート事業の[Step2]保健指導で実施している。[Step1]巡回事業所健診を受けた後、健診機関から対象者名簿を事業所に渡して、実施する。 ・共同巡回健診や人間ドックについては健診と保健指導セットで、実施する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	40	～	74	基準 該当者	28,309	【平成25年度】 【動機付け支援】 利用者数：473人/1,131人 利用率：41.8% 【積極的支援】 利用者数：736人/1,969人 利用率：37.4%	愛健康サポート事業の[Step2]保健指導の枠組みで実施している。健診機関は愛鉄連との契約で、特定保健指導を必ず実施しなければならないことになっている。利用しない事業所があれば、健診機関から愛鉄連へ連絡が入ることになっており、その場合は健保から事業所へ訪問や電話を通じて協力要請を行っている。	製造業のため、ライン作業が多く、職場離脱が問題となっている。人間ドック等で同日実施できない健診機関も多い。	3

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

## 「全健保組合共通様式」

4	機関誌発行	<p>【目的】保健事業や健康情報周知</p> <p>【概要】「けんぼだより」は事業所担当者向け、年4回発行で、職員で内製（モノクロ刷り）している。ホームページにもPDFで公開している。「愛・けんぼ」は全被保険者向け、手のひらサイズに折りたたんであり、年2回（春・秋）発行している。春は保健事業案内、秋はインフルエンザの補助金案内等。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	2,714	けんぼだより：全事業所（年4回季刊） 愛・けんぼ：全被保険者（年2回春秋）	「けんぼだより」は、法改正や事務の 手続き等タイムリーに情報提供をして いる。 「愛・けんぼ」は、被保険者に保健 事業や健保の考え方、財政状況を 伝えている。事業所担当者から、被 保険者に配付してもらっている。	「けんぼだより」は職員が構成から印 刷まで、すべてを内製している。写 真等が使えず、モノクロのため読ま せる工夫に限界がある。 「愛・けんぼ」が、会社のゴミ箱に捨 てられている。読ませる工夫がさらに 必要。	3
2	愛健康サポート事 業[Step4]受診 勧奨	<p>【目的】健診後の医療機関受診勧奨成功率の 向上</p> <p>【概要】愛健康サポート事業の[Step1]巡回事 業所健診後に当組合基準に該当している人 で、医療機関を受診されない方に対して、通 知、電話、面談により受診勧奨を行う。医療機 関に受診しているかどうかの有無は、職員がレセ プトを目視により確認している。また、平成25年 度からは事業所参加型の仕組み（コラボヘル ス・ワン）を導入した。参加事業所は、当組合 から対象者の医療機関受診有無の情報提供を 受けることができ、事業所の健康管理に活用で きる。</p> <p>[通知] 健診から6か月後と11か月後に通知を行う</p> <p>[特別健康支援ⅠおよびⅡ] 2年連続で医療機関への受診がない場合は、 保健師による電話受診勧奨を行う</p> <p>[特別健康支援Ⅲ] 当組合の特別健康支援Ⅲの基準に該当して いる人に対して、保健師による面談を行う</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	基準 該当 者	2,505	【平成24年度健診分】 健診受診者数：25,223人 基準該当者数：3,804人 (15.08%) 通知者数：2,326人(61.1%) 通知による受診人数：425人 受診勧奨成功率：19.1%	対象者抽出から、レセプト確認、通 知書（一部）印刷までを行うシス テムを内製している。レセプト確認 は、従来から目視により職員が確認 し、受診有無を判断するノウハウも 蓄積されているため、純粋な未受診 者に対して、勧奨を行えている。 コラボヘルス・ワンに参加している事 業所は、対象者の受診状況を確認 することができる。 役職員の事業所訪問により、コラ ボヘルス・ワンへの参加事業所が増 加している。	基準該当者数の増加により、レセ プト確認する作業時間が圧迫され ている。レセプト確認を自動化でき る体制づくりが急務である。外部事 業所との連携を進める必要がある。 コラボヘルス・ワンの事業所数をさ らに増やしていかなければならない。	2
3	前期高齢者健康 支援	<p>【目的】将来納付金の抑制を図るための、疾病 予防、介護予防、受診改善指導、健康相談 等の実施率向上</p> <p>【概要】前期高齢者を情報提供と訪問指導とに 区分し、訪問指導の家族に対して、委託業者 に自宅訪問を実施。訪問指導案内は、事業所 担当者を通じ配付し、訪問を受けるかどうかの回 答書を提出してもらう。</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	63	～	74	基準 該当 者	5,803	【平成25年度】 訪問指導案内対象者：692人 訪問委託実施率：47.3%	回答書の提出について、事業所担 当者で回収取りまとめを行っている。 回収率が上がれば、実施率も増え る。	自宅訪問は不審がられる傾向にあ る。訪問を受けるのが、面倒くさがら れる。いかに信用されるかがカギ。	2

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

## 「全健保組合共通様式」

保健指導 宣伝	4	家族で取り組む かぜ・むし歯予防 キャンペーン	<p>【目的】乳幼児医療制度の周知および呼吸器系疾患予防の手洗いうがい・歯みがきの習慣化</p> <p>【概要】未就学児世帯に10月～12月にかけてキャンペーン（エントリー型）展開をする。エントリーをするには、エントリーハガキをポストに投函する。該当世帯に案内リーフレット、カレンダーとシールを送付。リーフレットには乳幼児医療制度の仕組み（子供医療費はタダじゃない）やかぜ予防のコツや歯みがきの方法が載せてある。エントリーをすると、歯ブラシをプレゼント、最後のアンケートに答えると、つよい子賞をプレゼント。</p>	被扶養者	全て	男女	0	～	6	全員	4,332	<p>【平成25年度】案内送付世帯：3,456世帯 参加世帯数：1,128世帯 参加率：32.6%</p> <p>習慣化率：70%（547世帯） キャンペーンによる健保組合8割負担新規周知率：37%（288世帯）</p>	<p>未就学児が大好きなシール貼りを基礎にキャンペーンを展開。カレンダーやシールにオリジナルキャラクターを取り入れ、毎年デザインを変更している。歯ブラシやつよい子賞などインセンティブの仕組みも取り入れている。</p> <p>事業所経由ではなく、女性配偶者に届けるため個人宅へ発送している。</p> <p>エントリーハガキにはバーコードが印字されているため、住所や氏名などの個人情報を記入する必要がなく、好きな歯ブラシを選んでポストへ投函するだけでエントリーできる。</p>	<p>ハガキ、FAX以外の方法も必要か、例えばWebから登録する方法。</p> <p>歯ブラシの色を男女別にするのが難しい。</p> <p>一般的に健康に関心がある人々の割合30%の層が、そのまま参加世帯になっていると思われる。30%の壁をどう突破するかが課題である。</p>	4
	7	マスク無償配付	<p>【目的】インフルエンザ予防と花粉症の注意喚起</p> <p>【概要】毎年1月に全被保険者に対して、事業所経由でマスクを無償配付している。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	6,554	<p>【平成25年度】全被保険者約3万人に配付</p>	<p>事業所担当者の協力により、被保険者へ配付する。</p>	<p>事業所担当者の事務負担となる。</p> <p>平成20年度から配付を開始しているが、注意喚起の趣旨も浸透してきていると思われる。コスト面から、いったん中止とする検討も必要ではないか。</p>	4
	7	医療費のお知らせ	<p>【目的】医療機関等からの医療費請求の確認</p> <p>【概要】毎年6月および12月に過去6か月間の医療費状況（全数通知）を医療費のお知らせとして、事業所経由で配付する。</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	441	<p>【平成25年度】～通知数～ 平成25年6月：23,316件 平成25年12月：23,567件</p>	<p>事業所担当者の協力により、被保険者へ配付する。</p>	<p>事業所担当者の事務負担となる。</p> <p>医療費のお知らせを家庭に持ち込んでいるかや実際に内容を確認しているのかが不明。</p>	3
	7	ジェネリック通知	<p>【目的】ジェネリック医薬品への切り替えによって、患者の自己負担額を減らす→将来薬剤費の抑制</p> <p>【概要】医療費のお知らせと同時実施で切り替えによる自己負担減が1か月あたり1000円以上の方を対象とする。</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	基準 該当者	51	<p>【平成25年度】～通知数～ ジェネリック通知対象年月：平成25年2月分は372件 平成25年8月分は495件</p>	<p>事業所担当者の協力により、被保険者へ配付する。</p>	<p>ジェネリック医薬品の在庫が確保されているかや医師のジェネリック医薬品に対する理解不足。適正な削減効果額を算出するために、委託業者を変更することを検討。</p>	4

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

## 「全健保組合共通様式」

7	禁煙お助け事業 チャレンジ禁煙	【目的】禁煙をしたい人へのサポート 【概要】禁煙パッチ、ガムなどの禁煙補助剤の購入費用補助をし、その後のアンケートで禁煙に成功したかどうかの確認を行う。	被保険者 被扶養者	全て	男女	20	～	74	全員	6	【平成25年度】 参加者：4人 禁煙成功者：アンケートが未提出のため不明	なし	たばこ代が値上げされた平成23年度時点では、スギ薬局と提携し、当組合発行の割引券が利用できる仕組みにしていたが、OTC禁煙補助剤の限界のためか、年々極端に減少している（事業開始当初は300人を超える申込者がいた） 参加者数が少ないことを理由に廃止とするには、喫煙対策としての事業が無くなってしまつたため、事業としては存続させておき、事業所からの団体でコースがあった場合や保健指導等で禁煙勧奨を行う際の事業補完として機能するように捉えることが必要。	1
4	健康ウォーク	【目的】ウォーキングの習慣付け 【概要】健保連愛知連合会が主催するウォーキング大会で愛鉄連専用受付ブースを設置。参加証とお茶とパンなどを配付する。参加をするとaiポイントがたまり、ポイント数に応じて記念品をプレゼントする。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	629	【平成26年度】 4月開催：167人参加/218人申込み 10月開催：496人参加/602人申込み	歩きやすい、景色のよいウォーキングコースの場合に参加者数が伸びる傾向にある。aiポイントがたまり、500円のクオカードもプレゼントする。	すでに、ウォーキング習慣がついている人が参加している、そうではない人をどのように参加させるかが課題である。 当日、晴れていてもキャンセルする人がいるため、パンやお茶を手配しても無駄になってしまう。	4
7	新入社員向け社会保険概要説明	【目的】新入社員に対する社会保険の仕組みの周知 【概要】毎年4月頃、加入事業所の新入社員に対して社会保険の仕組みの概要を説明する。当組合の職員が事業所へ出向き健康保険、年金、介護、労災保険、雇用保険について30分～1時間30分かけて説明する。	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	477	【平成25年度】 訪問事業所数：28社 (5.12%) 新入社員への説明：212人	事業所が新入社員向けの研修を行う際に、社会保険の説明をする事務職員が不足しているため、研修プログラムの1コマとしての需要がある。 新入社員1人から当組合職員を派遣するため、事業所にとっては利用しやすい。	説明を行う職員の数が少ない。 4月上旬に新入社員研修を行う事業所が多く、その期間は、事業所の要望に応えられないことが多々ある。	4
5	愛けんぼファミリー健康相談	【目的】加入員の健康相談に乗る 【概要】通話料・相談料無料・匿名可 24時間年中無休の健康相談。医師や専門スタッフが対応。電話とメール	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	3,194	【平成25年度】 相談件数：1,300件 内訳 電話：1,297件 メール：3件	通話料・相談料無料・匿名可 24時間年中無休の健康相談。	始めて利用するまでに抵抗感のある人がいると思われる。毎年、件数は同程度。	4

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

1	愛健康サポート事業[Step1]巡回事業所健診	<p>【目的】生活習慣病予防健診の受診率向上</p> <p>【概要】全被保険者を対象に、生活習慣病を対象とした健診を実施し、現在の身体状況を把握し、生活習慣改善に役立てる。血液検査の種類が充実している他に、オプション検査項目として、胃のバリウム検査、前立腺(PSA)検査がある。</p> <p>愛知県内を10以上の地区に分け、地区ごとに健診機関と契約を行っている（1地区1健診機関制）。各地区の健診機関は健診の時期が来たら、担当地区の事業所と調整を行い、健診を実施する。この健診を受ければ、[Step2]保健指導、[Step3]再検査、[Step4]受診勧奨の仕組み順番で、事業所は従業員の健康管理ができるようになっている。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	176,738	<p>【平成25年度】</p> <p>受診者数：24,888人 受診率：84.5%</p> <p>巡回胃健診：4,377人 受診率：19.6%</p> <p>前立腺がん健診：2,530人 受診率：38.4%</p> <p>再検査：2,938人</p>	<p>1地区1健診機関制としているため、契約健診機関は、担当の地区の事業所に対して、健診を実施するように働きかける。10人未満の事業所にも巡回バスが出向く。</p> <p>健診内容の変更時、契約健診機関と打ち合わせをするだけある程度の対応をとることができる。</p> <p>愛鉄連専用の健診ファイルレイアウトCSVで全契約健診機関から健診データを入力できる。</p>	<p>規模が10人未満の事業所では、毎年健診を受診する風土がない。（愛健康サポート事業の周知不足）</p>	4
3	愛健康サポート事業[Step2]健康支援	<p>【目的】巡回事業所健診後の保健指導利用率向上</p> <p>【概要】巡回事業所健診後に有所見者に対して、生活習慣改善のための保健指導を実施。巡回事業所健診を実施した同一健診機関が事業所に保健指導を行うように連絡する。対象者リストに基づき、事業所は保健指導を実施する。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	基準該当者	11,575	<p>【平成25年度】</p> <p>保健指導利用者数：3,648人 利用率：26.1%</p>	<p>1地区1健診機関制としているため、契約健診機関は、担当の地区の事業所に対して、保健指導を実施するように働きかける。39歳以下の保健指導として利用する。</p>	<p>就業時間内に行うため、また製造業ではライン作業が多いため、職場離脱が問題となる。5分程度で終わってしまうケースも少なくない。</p>	4

# STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

疾病予防	1	人間ドック、脳健診及びがん健診	<p>【目的】生活習慣病予防健診、がん健診の受診率向上</p> <p>【概要】個人向け健診として、加入員がいつでも受診できるようにしている。契約健診機関は60以上ある。申込みにより、利用券を発行し、自己負担分を窓口で支払うだけで受診できる。契約健診機関以外でも補助金対応している。補助金額は、7割または21,000円まで補助（どちらか低い方）</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	30	～	74	全員	89,296	<p>【平成25年度】 人間ドック 受診者数：被保険者3,520人 受診率：15.7% 被扶養者：446人 受診率：4.5% 脳健診：335人 受診率：1.0% がん健診 [胃]：10,009人 受診率：31.0% [大腸]：18,153人 受診率：56.1% [前立腺]：3,395人 受診率：50.2% [肺]：15,557人 受診率：69.8% [乳がん超音波]：862人 受診率：6.4% [乳がんマンモ]：1,741人 受診率：12.9% [子宮頸がん]：2,126人 受診率：12.8%</p>	<p>加入員はそのほとんどが愛知県内に住んでいるが、愛知県内の契約健診機関数は60機関を超えているため、受診しやすい。</p> <p>当組合が申請に基づき人間ドックおよびがん健診利用通知書を発行しているため、契約健診機関であれば、受診者は自己負担を窓口で支払うだけで済む。</p>	<p>愛知県内でも東三河は健診機関自体少ないため、契約数も少ない。加入員の利便さは厳密に言えば公平ではない。</p>	4
	1	共同巡回健診	<p>【目的】受診率の向上</p> <p>【概要】30歳以上の女性被保険者及び被扶養者を対象に、東海地区、関東、大阪を含む149会場で、人間ドック並みの巡回健診を実施。被保険者女性は、婦人科系のみ。</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	30	～	74	全員	33,564	<p>【平成25年度】 被扶養者女性受診者数：1,879人 受診率：20.3% 被保険者女性受診者数：411人 受診率：10.3% 被扶養者男性受診者数：21人 受診率：9.3%</p>	<p>会場数が多く、対象者が住んでいる近くの公共施設で人間ドック並みの健診を受診することができる。</p>	<p>健診の重要性の理解不足。対象者が自己負担8,000円を高いと感じる傾向にある。隔年受診。</p>	3
	7	疾病予防薬の無償配付	<p>【目的】呼吸器系疾患等の医療費抑制</p> <p>【概要】全被保険者に家庭用常備薬を無償配付。インフルエンザ関連商品は割安に設定している。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	50,853	<p>【平成25年度】 28,581人 利用率97.4% セルフメディケーションの向上（配付した常備薬を利用したことで医療機関へ行かなかった割合）75.2%</p>	<p>無償で提供している</p>	<p>事業所の事務負担がかかっている。配付した薬の効果検証が見えづらい。今後、検証が必要</p>	4

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

体 育 奨 励	4	球技大会の開催	【目的】加入員の体育奨励 【概要】愛鉄連体育奨励実行委員会で、野球大会と卓球大会を開催	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	1,500	野球大会：10月 卓球大会：3月		1
	7	各種施設の利用補助	【目的】加入員の体育奨励 【概要】東海地方を中心にレジャー施設やプール施設と契約をし100円の補助を行う	被保険者 被扶養者	全て	男女	0	～	74	全員	162	【平成25年度】 1,615人 利用率 2.8%	100円の補助を行う。	以前は400円補助があり、利用者数もそれなりにあったが、今は以前ほど魅力がない。施設から契約解除の申出が始まっている。
直 営 保 養														
そ の 他														
( 予 算 措 置 な )														

## STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

「全健保組合共通様式」

事業主の取組								
事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	

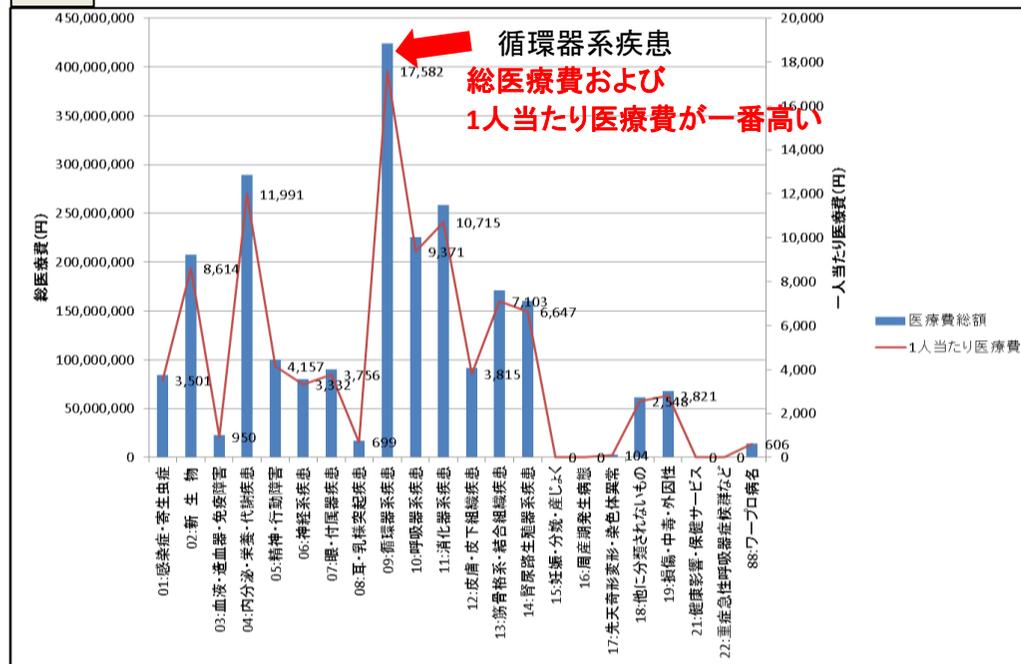
注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1: 39%以下 2: 40%以上 3: 60%以上 4: 80%以上 5: 100%以上

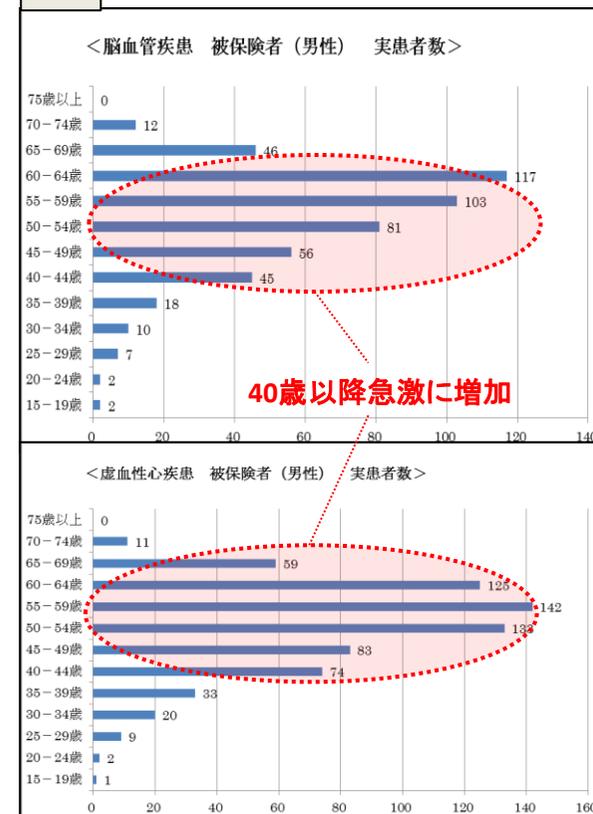
- ・各保健事業については、毎年10月に保健事業に関するアンケートを通じ、評価を受けている。平成22年度に、大幅に事業見直しを行い、健診や保健指導等の疾病予防に特化した事業展開を行う方針を固めた。
- ・各事業は、データ分析を根拠に展開しているが、より適正な事業評価を行っていく必要がある→P D C Aの徹底。
- ・加入事業所に対する、見える化、情報発信力も当組合は弱い部分と考えている。
- ・事業主で行っている取組については、漠然と把握しているだけに留まっており、事業名や目的、概要等の詳細把握はしていません。データヘルス計画では、事業所訪問を通じきちんと把握していくこととしています。

## STEP 1 - 3 (レセプト分析)

## ア. 分類別医療費(被保険者男性)



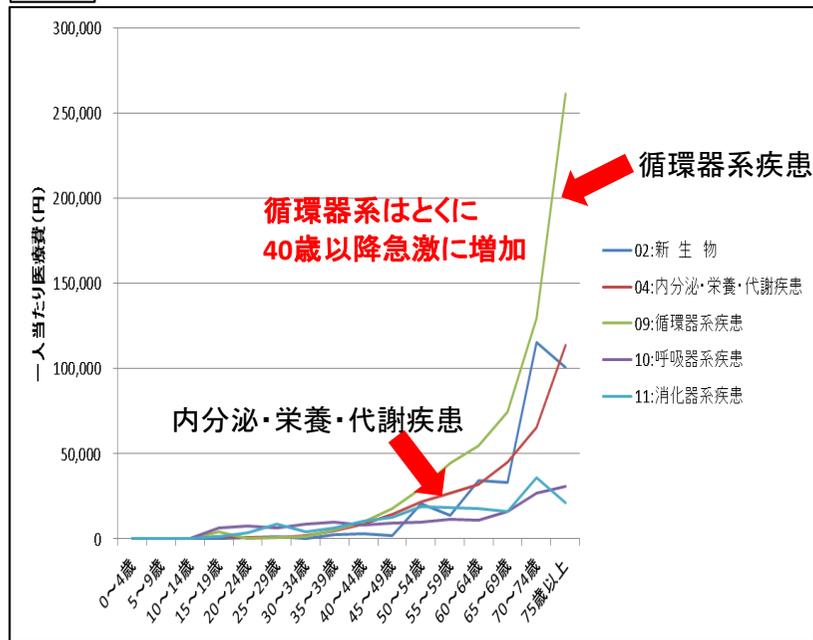
## イ. 重症疾患発症者数



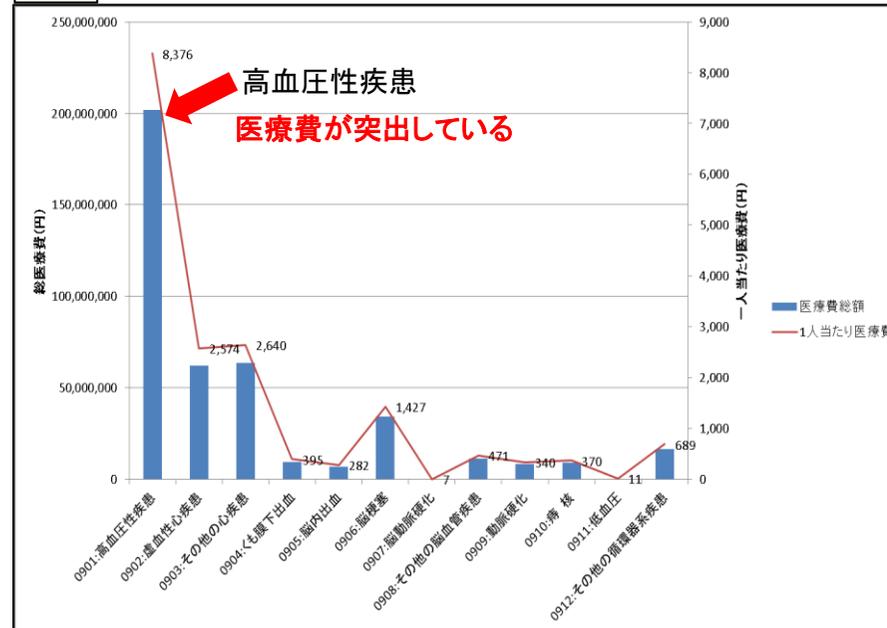
- 被保険者男性について、疾病大分類を行ったところ、総医療費の高い順に上位5位を占めているのは、①「循環器系疾患」、②「内分泌・栄養・代謝疾患」、③「消化器系疾患」、④「呼吸器系疾患」、⑤「新生物」となっています。一人当たり医療費では、「循環器系疾患」が他と比べ突出しています。⇒ア
- 脳血管疾患および虚血性心疾患について、重症疾患の発症者数を調査したところ、ともに40歳以降急激に増えている。⇒イ

## STEP 1 - 3 (レセプト分析)

## ウ. 年代別 一人当たり医療費(上位5位)



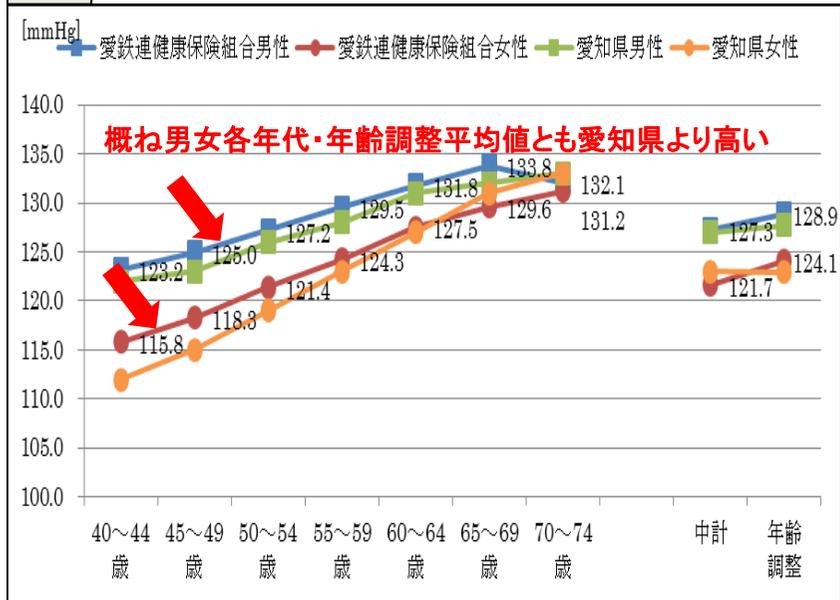
## エ. 「循環器系疾患」の中分類別医療費



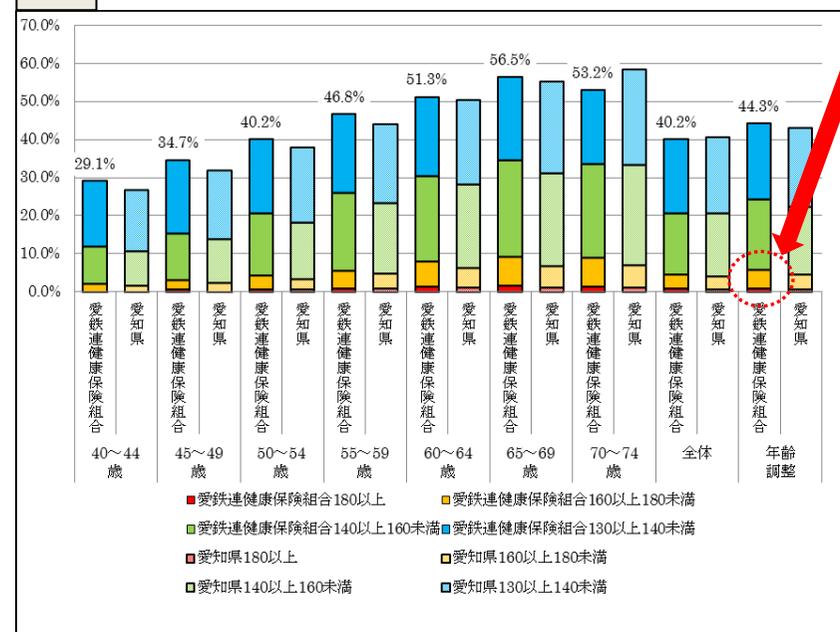
- 上位5位の分類項目について、年代別の一人当たり医療費をみると、「循環器系疾患」と「内分泌・栄養・代謝疾患」は、40歳以降急激に伸びています。⇒ウ
- 上位1位「循環器系疾患」の中分類について、さらに一人当たり医療費をみた場合、「高血圧性疾患」が他と比べ突出しています。⇒エ
- 脳血管疾患や心疾患などの重症疾患につながる可能性が高い高血圧は、若年層からのリスク回避が必要である。

## STEP 1 - 4 (健診データ分析)

## オ. 収縮期血圧を愛知県と比較



## カ. 収縮期血圧を愛知県と比較

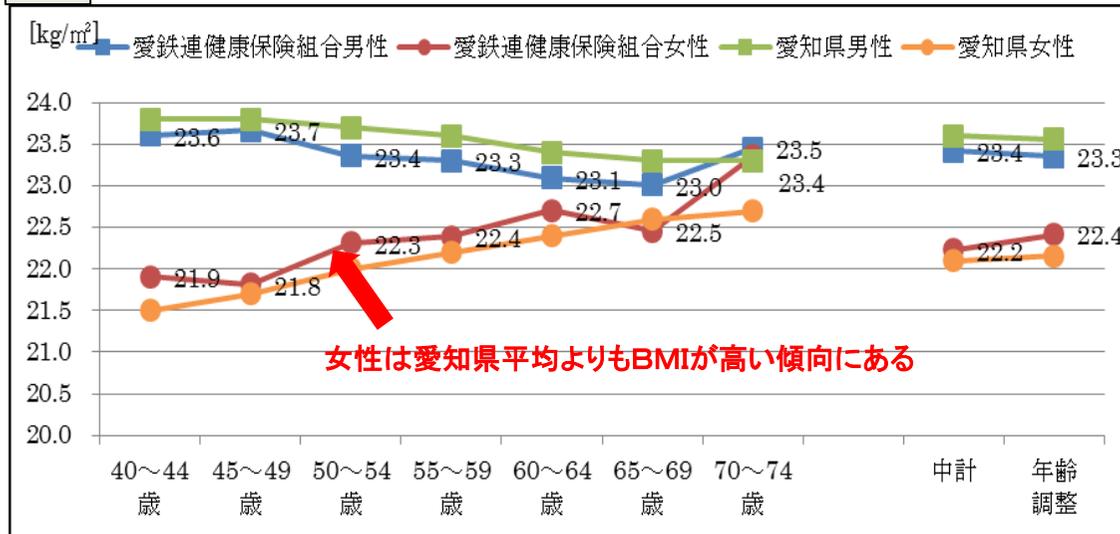


160mg/Hg以上の人は年齢調整後においても愛知県より多くなっている

- 特定健診項目について、愛知県との比較を行ったところ、収縮期血圧は概ね男女各年代・年齢調整平均値とも愛知県より高く、160mg/dl以上の人も一定数いることがわかりました。⇒オ、カ
- レセプト分析からだけでなく、健診データ分析からも高血圧という課題が浮き彫りとなりました。

# STEP 1 - 4 (健診データ分析)

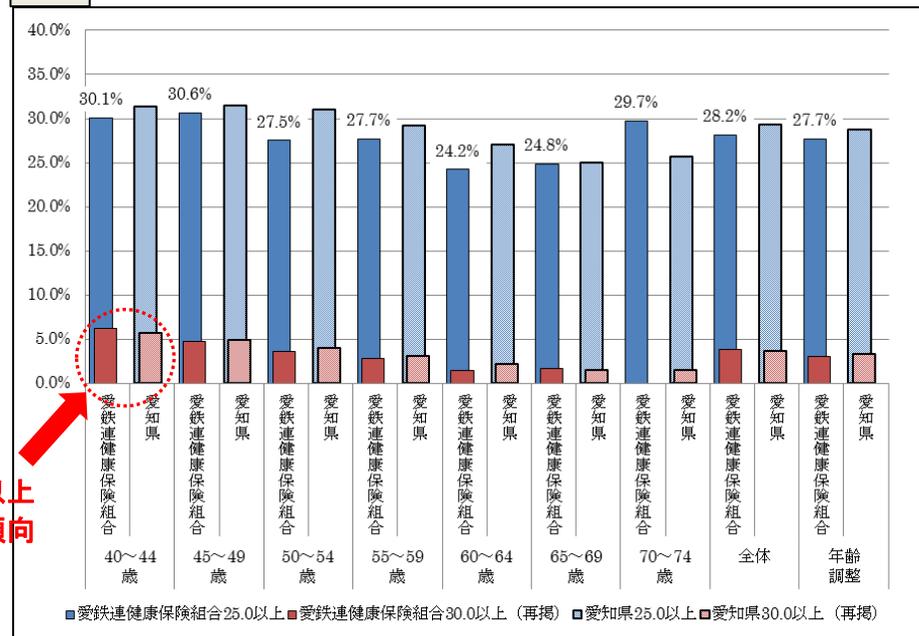
## キ. BMIを愛知県と比較



- BMIでは、男性について、愛知県と比べ平均値は低くなっていますが、年代別にみるとBMI30以上の肥満者は40代に多く50代は少ない傾向にあることがわかりました。女性については、全体的に肥満者が多く平均値も愛知県より高い傾向にあります。

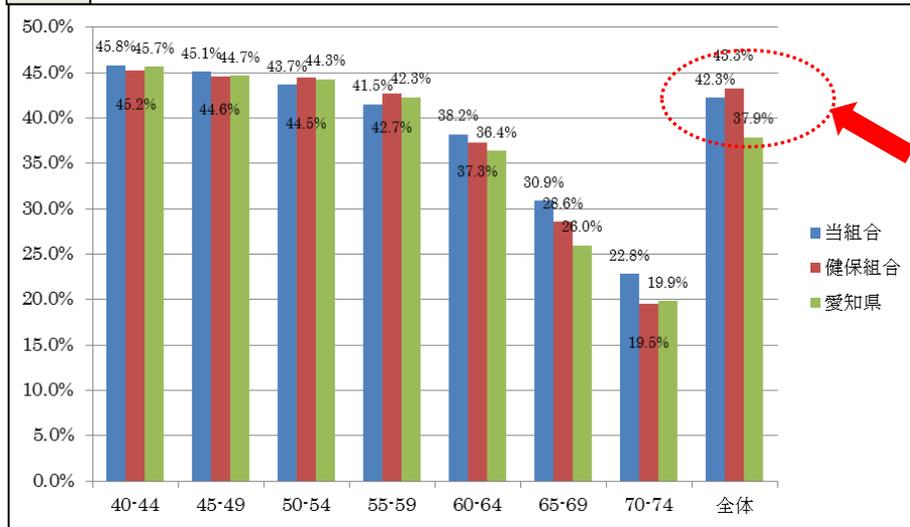
40歳~44歳のBMI 30.0以上の男性は愛知県よりも高い傾向

## ク. 男性: BMI 25.0以上の割合



# STEP 1 - 4 (健診データ分析)

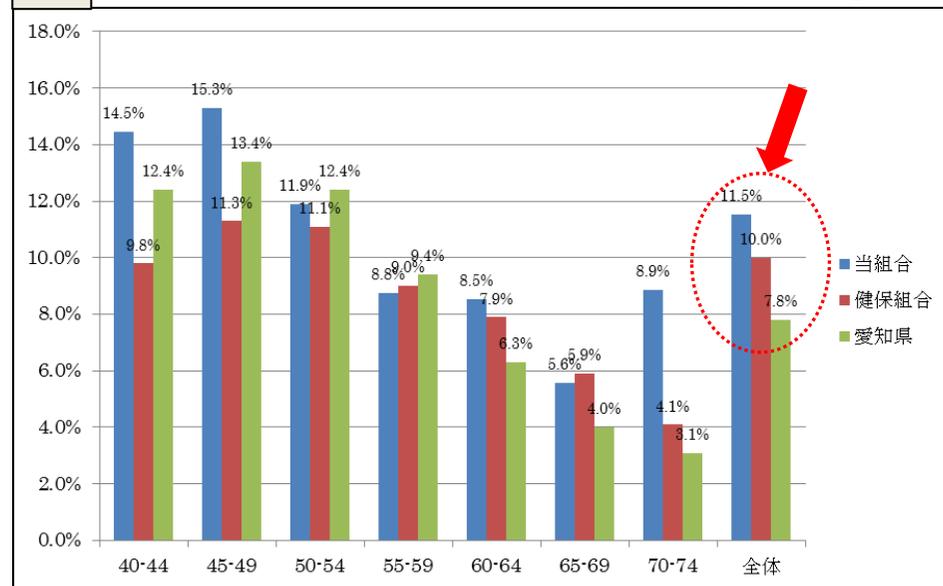
## ケ. 喫煙率を愛知県と比較(男性)



男性全体の喫煙率では、他の健保組合よりは低い傾向にあるものの、愛知県と比較すると4.4%高くなっている。

- 喫煙について男女とも、年代によっては愛知県より低くなっているところがありますが、全体的に高くなっています。愛知県との差 男性:+4.4% 女性:+3.7%
- 40代男性の喫煙率が高くなっている。

## コ. 喫煙率を愛知県と比較(女性)



女性全体の喫煙率では、他の健保組合よりも高く、愛知県比較では3.7%高くなっている。

# STEP 1 - 5 (高リスク保有者抽出)

既存事業の受診勧奨では、リスク保有者を「特別健康支援Ⅲ」と定義していますが、さらに高リスク保有者(重症化リスクⅡ)として右記の基準を作成し、抽出を行いました。

- 本人のうち、重症化リスクⅡ相当の人数は623人となっており、この人たちは将来、脳血管疾患や虚血性心疾患で倒れてしまう可能性が十分にある。
- 健康保険組合が早急に手を打たなければ、ならない。

特別健康支援Ⅲの基準表

		特別健康支援Ⅲ (【】は重症化リスクⅡに対向)	
血圧	最高血圧	【180mmHg以上】	
	最低血圧	【110mmHg以上】	
血糖	空腹時血糖 (食後10時間以上)		
	HbA1c (NGSP)	7.4%以上 <b>【8.0%以上】</b>	
脂質	LDLコレステロール	200mg/dL以上 (男性のみ)	
	血清クレアチニン	1.3mg/dL以上(男性) 1.0mg/dL以上(女性)	
腎機能	尿蛋白 ・ eGFR	① 尿蛋白あり eGFRなし	【尿蛋白2+以上】
		② 尿蛋白なし eGFRあり	【eGFR30未満】
		③ 尿蛋白あり eGFRあり	尿蛋白(-)かつeGFR30未満 or 尿蛋白(±)かつeGFR30未満 or 尿蛋白(+)かつeGFR30未満 or 尿蛋白2+以上

\*【】で囲まれている数値を高リスク保有者(重症化リスクⅡ)としています。

## サ. 抽出結果

健診実施期間 平成25年5月1日	平成26年4月30日	加入員: 健診を受診した33,000人分の健診データから抽出													
<b>特別健康支援Ⅲ</b>															
1122(*20人が重複している)															
本人						家族									
1086						36									
重症化リスクⅡ相当				その他				重症化リスクⅡ相当				その他			
623				463				21				15			
治療無し		治療中(G)		治療無し		治療中(G)		治療無し		治療中(G)		治療無し		治療中(G)	
390		233		339		124		20		1		12		3	
ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回	ドック	巡回
89	301	23	210	69	270	15	109	20	1	12	3	12	3	3	3
重症化リスクⅡのうち		HbA1c(8.0以上)		27		114		18		158		11			
のうち		血圧(180以上又は110以上)		20		106		4		36		6		1	
のうち		尿(++以上)		48		102		4		39		3			

# STEP 1 - 6 (新規 コラボヘルス推進事業の事業所訪問で用いる資料)

## シ. 事業所別の健康保険料収支状況

<裏面>

記号 999 ｱｲﾃﾞｨﾝ工業(株) 御中 愛鉄連健康保険組合

平成25年度 事業所別収支状況について

貴事業所にかかる健康保険収支状況をお知らせします。下記は、収入と支出を比較したグラフおよび表となっており、その年度内における収支の差を表示しています。

区分	科目	決算額	割合	備考
収入	保険料	20,000,000	98.0%	健康保険料と一般保険料の確定額
	その他	405,888	2.0%	保険料を除くその他の収入
支出	医療費	22,000,000	66.4%	保険給付費のうち現物給付にかかるもの
	納付金	8,542,758	25.8%	前期留貯蓄貯付金および後期留貯蓄支戻金
	保健事業費	674,604	2.0%	巡回事業所確認をはじめとする各種保健事業
	現金給付	1,400,000	4.2%	保険給付費のうち現金給付にかかるもの
	その他	528,822	1.6%	上記4項目以外のその他支出
計	収入	20,405,888		
	支出	33,146,184		
	収支差	-12,740,296		

単位: 円

**当該年度が赤字なのか黒字なのかがわかります**

組合全体および同規模事業所との比較表 (被保険者1人あたり)

単位: 円

区分	No	科目	組合全体:A	同規模:B	ｱｲﾃﾞｨﾝ工業(株):C	BとCの比較
被保険者1人あたり	1	保険料	461,321	435,054	395,547	-39,507
	2	その他収入		9,664		--
	3	医療費	199,990	211,663	538,959	327,297
	4	納付金		203,399		--
	5	保健事業費		16,062		--
	6	現金給付	35,413	22,126	32,820	10,694
	7	その他支出		11,897		--
	8	傷病手当金(再掲分)	7,795	7,473		-7,473
	9	収支差	4,223	-19,474	-303,340	-283,866
基礎数値	10	平均被保険者数	29,501	4,574	42	人数
	11	平均標準報酬月額	323,400	316,446	283,183	
	12	平均標準賃与額	761,747	569,908	505,738	
同規模事業所: 50人以上99人以下の73社				年課内在籍人数	52人	

～比較表について～

- ・保険料は、健康保険料と医療保険料の合計を平均
- ・医療費は、保険給付費のうち、現物給付にかかる
- ・現金給付は、保険給付費のうち、現金給付にかかる
- ・その他収入、納付金、保健事業費、その他支出に被保険者1人あたり金額を同規模事業所、貴事業所に設定しています。
- ・年課内在籍人数とは、年課内に1日でも資格があった被保険者数のことをいいます。

**同規模事業所と比較して、良好なら青色、不良なら赤色で表示されます**

～備考～

- ・ 事業主の納めた保険料が何にいくら使われたかを一目で事業主が把握することができます。医療費が高ければ、従業員への健康に対する関心度が増し、健康づくり活動へのきっかけとなります。また、被保険者1人あたりで同規模事業所との比較もできます。



## STEP 2 健康課題の抽出

「全健保組合共通様式」

## 基本分析による現状把握から見える主な健康課題

レ セ ブ ト 健 診 デ ー タ 分 析	<p>働き盛りの40歳代からも脳血管疾患、虚血性心疾患を発症する者が出ている現状がある。(イ)</p> <p>その原因となっているのが高血圧(ウ、エ)であるが、愛知県との比較においても概ね全年代で高くなっている。まずは、愛知県並みにする必要がある。(オ、カ)</p> <p>喫煙率(男性)については、60歳を過ぎると急激に低下していくものの、40歳代は高い状況にある。(ケ、コ) 喫煙は生活習慣病の最大の危険因子であることから、禁煙に向かう行動変容を促す必要がある。</p> <p>肥満(BMI:男性)について、40歳代が高い状況となっている。(キ、ク) 若年のうちに、できるだけ早い段階で、生活習慣を改善しなければならないと思わせる事業を行う必要がある。</p>
高 リ ス ク 保 有 者 抽 出	<p>脳血管疾患等の重症疾患発症者数を調査したところ、40代から急激に増加していることが明らかとなりました。このような、高リスク保有者を確実に抽出し、介入する必要がある。平成25年度健診実施分の高リスク保有者(重症化リスクⅡ相当)は、623人。(サ)</p>

## 対策の方向性

各事業所において、従業員(被保険者)に対する健康機運を醸成させるための健康づくり活動が必要であると考えます。それには、まず事業主の理解や担当者の協力が必要となります。事業所目線で考えた資料(事業所別の収支状況や健康課題)を作成し、事業所訪問を行うことが必要。また事業所は、同規模事業所に関心を見せていることから、今回の健康課題抽出から明らかとなった血圧、喫煙、メタボのランキングを作成し、同規模内の自事業所の位置を知ってもらうこと(事業所訪問)で健康づくり活動を推進していきます。⇒コラボヘルス推進事業

以前から実施している、重症化予防のための受診勧奨における対象者抽出基準を改善し、医療機関受診中の者であっても、電話や個別保健指導で介入を行う。個別保健指導は、積極的支援のような生活習慣プログラムを実施、HbA1c等の数値管理を健保側で行う。

## STEP 2 健康課題の抽出

「全健保組合共通様式」

特徴	対策検討時に留意すべき点
<p data-bbox="159 316 197 427">基本情報</p> <ul data-bbox="237 280 936 464" style="list-style-type: none"> <li>・加入事業所数が566社と多い。ほとんどの事業所と加入員は愛知県内に所在している。</li> <li>・566社のうち50人未満が380社、20人未満は252社である。</li> <li>・35歳～44歳までの被保険者が多い。</li> </ul>	<ul data-bbox="1099 280 1993 504" style="list-style-type: none"> <li>・加入事業所数が多い当組合では、これまで全体分析や全体に対するアプローチの方針をとらざるを得ない状況であったが、今後は事業所規模ごとあるいは事業所ごとの事業展開が必要であることに留意する必要がある。</li> <li>・コラボヘルスに積極的な事業所を重要協働先とし、その影響を受ける事業所を増やすような取り組みにも留意する必要がある。</li> </ul>
<p data-bbox="159 600 197 815">保健事業の実施状況</p> <ul data-bbox="237 635 936 743" style="list-style-type: none"> <li>・愛健康サポート事業の[Step4]受診勧奨の重症化予防の仕組みが脆弱、本当に危険な人への介入がきちんとできていない。</li> </ul>	<ul data-bbox="1099 655 1977 727" style="list-style-type: none"> <li>・当組合で顧問医師等と契約を行い、重症化予防の仕組みづくりに着手することを最優先にする。</li> </ul>

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算 科目	注1) 事業 分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2) 実施 主体	実施計画			目標（達成時期：平成29年度末）				
				資格	対象 事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム			
職場環境の整備																	
保健 指導 宣伝	7	新規	【コラボヘルス推進事業】 事業所訪問	【目的】事業所における健康づくり活動のきっかけづくり (従業員の健康に対する事業主の関心度の向上) 【概要】役職員4人による事業所訪問活動(2人1組)。各事業所別の①健康保険料収支状況(シ)と②健康白書(ス)を持参し、事業所の現在状況を説明する。 ①については、納めた健康保険料が医療費、納付金、現金給付、保健事業にどのくらい使われたのかを収支棒グラフ(実際の事業所ごとの金額)で表示した資料。 ②については、定型6項目の健康指標をレーダチャートグラフで同規模事業所と比較をしたり、血圧、喫煙、メタボについて同規模事業所内でのランキングを作成した資料		全て					1	平成26年度の事業所別収支状況と健康白書で説明する	平成26年度～平成27年度の事業所別収支状況と健康白書で説明する	平成26年度～平成28年度の事業所別収支状況と健康白書で説明する	年間100社訪問で、平成29年度末には300社訪問(全事業所の53%)	従業員の健康に対する事業主の関心度 『高いと思う』を占める割合が10.9%→30% ～参考～ 平成26年度 事業主アンケート調査 『高いと思う』：10.9% 『どちらかといえば高いと思う』：61.4% 『どちらかといえば低いと思う』：21.8% 『低いと思う』：4.0% 『未回答』：2.0% *高いと思うレベルは、ex.健診結果が正常範囲にない従業員を具体的にフォローしている *低いと思うレベルは、ex.健康管理は個人の問題で関心がない	
	4	新規	【コラボヘルス推進事業】 健康づくり活動の広報	【目的】健康づくり機運の醸成(健康づくり活動を行う事業所を増やす) 【概要】健康づくり活動を実施している事業所の紹介をすることで、加入事業所全体の健康づくり活動機運を醸成する。季刊『けんぼだより』のメインとなる記事を事業所の健康づくり活動にし、写真やイラストを取り入れ読んでもらうような構成とする。(67.3%の事業所は他事業所の取り組みに興味を示している)		全て					1	年間4社の健康づくり活動事例を紹介する	継続	継続	12社を紹介(全事業所の2.1%)	健康づくり活動を実施している事業所数90社(16%)	
加入者への意識づけ																	
保健 指導 宣伝	4	新規	【コラボヘルス推進事業】 健康課題特性ポスター 配付	【目的】健康づくり機運の醸成(健康づくりを始める人へのきっかけづくり) 【概要】被保険者が一息つくトイレで見てもらえるようなシール型ポスターを作成し、健康づくりへのきっかけづくりを行う。ポスターは常識に捉われない内容で、メタボ、喫煙、血圧をはじめとする健康課題を中心に作成する。	被保険者	全て	男女	16	～	74	全員	1	事業所へ配付	継続	継続		
	4	新規	【コラボヘルス推進事業】 健康づくり活動サポート	【目的】事業所における健康づくり活動のサポート 【概要】自発的に健康づくり活動を行いたい事業所を対象に当組合スタッフが健康づくり活動実施までのサポートを行う。成功事例があれば『けんぼだより』で紹介する。		全て						2	健康づくり活動に積極的な理解を示す事業所を中心に活動開始までサポートする。	継続	継続	9社をサポート(全事業所の1.6%)	健康づくり活動を実施している事業所数90社(16%)
個別の事業																	

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者						注2)実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)			
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者	平成27年度		平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム			
特定健康診査事業	1	既存 (法定)	特定健診(被保険者)	【目的】特定健診の受診率向上および健康維持 【概要】愛健康サポート事業の[Step1]巡回事業所健診や人間ドック等で同時実施	被保険者	全て	男女	40	~	74	全員	1	・愛健康サポート事業の[Step1]巡回事業所健診や人間ドック事業を引き続き実施する。 ・事業所訪問の際に健診の重要性を伝える	継続	継続	健診実施の促進 : 14,000人(受診率 : 92.3%→95%以上)	受診者の健康維持 (特定保健指導対象者該当率:20%未満)
	1	既存 (法定)	特定健診(被扶養者)	【目的】特定健診の受診率向上および健康維持 【概要】女性配偶者を対象とした共同巡回健診や人間ドック等で同時実施	被扶養者	全て	男女	30	~	74	全員	1	女性配偶者を対象とした共同巡回健診や人間ドックを引き続き実施する。	継続	継続	健診実施の促進 : 2,300人(受診率 : 29.5%→35%以上)	受診者の健康維持 (特定保健指導対象者該当率:7.0%未満)
特定保健指導事業	3	既存 (法定)	特定保健指導	【目的】利用率の向上および健康改善 【概要】愛健康サポート事業の[Step2]保健指導や人間ドック、共同巡回健診の後に実施	被保険者 被扶養者	全て	男女	40	~	74	基準対象者	1	事業所訪問を通じ、利用を促進する	継続	継続	指導実施の促進 [動機付け支援] : 510人(利用率 : 41.8%→45%以上) [積極的支援] : 890人(利用率 : 37.4%→45%以上)	利用者の健康改善 (情報提供への推移率 : 積極的支援→情報提供 25%) (情報提供への推移率 : 動機付け支援→情報提供 40%)
	4	既存	機関誌の発行	【目的】保健事業や健康情報周知 【概要】「けんぼだより」は事業所向け、事業所の健康づくり活動を紹介を行う。 「愛・けんぼ」は被保険者向け、手のひらサイズに折りたたんであり、年2回 (春・秋) 発行している。春は保健事業案内、秋はインフルエンザの補助金案内等。	被保険者	全て	男女	16	~	74	全員	1	「愛・けんぼ」は春・秋に発行する。読みやすさを追求し、紙面レイアウトを工夫する	継続	継続	全被保険者に配付	

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)			
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム		
保健指導宣伝	3	既存 愛健康サポート事業 [Step4]受診勧奨	<p>【目的】健診後の医療機関受診勧奨成功率の向上</p> <p>【概要】愛健康サポート事業の[Step1]巡回事業所健診後に当組合基準に該当している人で、医療機関を受診されない方に対して、通知、電話、面談により受診勧奨を行う。医療機関を受診しているかどうかの有無は、職員がレセプトを目視により確認している。また、平成25年度からは事業所参加型の仕組み（コラボヘルス・ワン）を導入した。参加事業所は、当組合から対象者の医療機関受診有無の情報提供を受けることができ、事業所の健康管理に活用できる。</p> <p>[通知] 健診から6か月後と11か月後に通知を行う [特別健康支援ⅠおよびⅡ] 2年連続で医療機関への受診がない場合は、保健師による電話受診勧奨を行う [特別健康支援Ⅲ]→コラボヘルス・ワンに参加している事業所のみ 当組合の特別健康支援Ⅲの基準に該当している人に対して、医師または保健師による面談を行う。さらに、重症化リスクⅡ相当の被保険者に対しては生活習慣プログラムを実施し、当組合で顧問医師の指示のもと数値管理を行う。</p>	被保険者	全て	男女	16	～	74	基準対象者	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が目視で確認している作業を自動化に切り替える</li> <li>事業所訪問によりコラボヘルスワンの参加事業所数を増やす</li> <li>重症化リスクⅡ相当の被保険者に対する生活習慣プログラムの実施</li> </ul>	継続	継続	<p>事業所訪問：300社（全事業所の53%） 受診勧奨対象者数：4,200人（健診受診者の16%程度） 重症化リスクⅡへの面談アプローチ：623人</p>	<p>コラボヘルスワン参加事業所：200社（全事業所の35%） 受診勧奨成功率：19.1%→30% 重症化リスクⅡの生活習慣プログラム実施数：250人（重症化リスクⅡ相当：623×40%）</p>
	6	既存 前期高齢者健康支援	<p>【目的】将来納付金の抑制を図るための、疾病予防、介護予防、受診改善指導、健康相談等の実施率向上</p> <p>【概要】前期高齢者を情報提供と訪問指導とに区分し、訪問指導の家族に対して、委託業者に自宅訪問を実施。訪問指導案内は、事業所担当者を通じ配付し、訪問を受けるかどうかの回答書を提出してもらう。</p>	被保険者 被扶養者	全て	男女	63	～	74	基準対象者	1	事業所担当者に対象者の連絡先回答書の取りまとめを依頼する	継続	継続	<p>訪問指導案内対象者：700人 35%（65歳～74歳までの人数は2,000人）</p>	訪問委託実施率：60%
	4	既存 家族で取り組むむせ・むし歯予防キャンペーン	<p>【目的】乳幼児医療制度の周知および呼吸器系疾患予防の手洗いうがい・歯みがきの習慣化</p> <p>【概要】未就学児世帯に10月～12月にかけてキャンペーン（エントリー型）展開をする。エントリーをするには、エントリーハガキをポストに投函する。該当世帯に案内リーフレット、カレンダーとシールを送付。リーフレットには乳幼児医療制度の仕組み（子供医療費はタダじゃない）やかぜ予防のコツや歯みがきの方法が載せてある。エントリーをすると、歯ブラシをプレゼント、最後のアンケートに答えると、つよい子賞をプレゼント。</p>	被扶養者	全て	男女	0	～	6	全員	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加率をあげる工夫として、参加した世帯の中から抽選で加湿器等をプレゼントする</li> <li>スマホからもエントリー可とする</li> </ul>	継続	継続	<p>案内送付世帯：3,700世帯（全被保険者の12%相当） 参加率：40%</p>	<p>習慣化率：70% キャンペーンによる健保組合8割負担新規周知率：40%</p>

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム	
	7	既存	ジェネリック通知	【目的】ジェネリック医薬品への切り替えによって、患者の自己負担額を減らす→将来薬剤費の抑制 【概要】医療費のお知らせと同時実施で切り替えによる自己負担減が1か月あたり1000円以上の方を対象とする。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	基準対象者	1	事業所担当者の協力により、被保険者へ配付する。	継続	継続	自己負担額が1000円以上削減見込みの人 200人×年2回	切り替え率：30%以上
	7	既存	禁煙お助け事業チャレンジ禁煙	【目的】禁煙をしたい人へのサポート 【概要】禁煙パッチ、ガムなどの禁煙補助剤の購入費用補助をし、その後のアンケートで禁煙に成功したかどうかの確認を行う。事業所からの団体にコースがあった場合や保健指導等で禁煙勧奨を行う際に利用できる。他の事業を補完する目的のための事業。	被保険者 被扶養者	全て	男女	20 ~ 74	全員	1	事業所訪問を通じ、喫煙率が高い事業所に利用案内をする。特定保健指導等で案内する	継続	継続	事業所訪問の年間100社に利用案内を行う	利用者：30人以上
	4	既存	健康ウォーク	【目的】ウォーキングの習慣付け 【概要】健保連愛知連合会が主催するウォーキング大会で愛鉄連専用受付ブースを設置。参加証とお茶とパンなどを配付する。参加をするとaiポイントがたまり、ポイント数に応じて記念品をプレゼントする。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	4月と10月に開催	継続	継続	毎回400人以上(0.7%)の参加	新規参加率：40%以上
	7	既存	新入社員向け社会保険概要説明	【目的】新入社員に対する社会保険の仕組みの周知 【概要】毎年4月頃、加入事業所の新入社員に対して社会保険の仕組みの概要を説明する。当組合の職員が事業所へ出向き健康保険、年金、介護、労災保険、雇用保険について30分～1時間30分かけて説明する。	被保険者	全て	男女	16 ~ 74	全員	1	職員を事業所へ派遣する。	継続	継続	訪問事業所数：30社(全事業所の5.4%相当) 新入社員への説明：250人(全新規取得者の8%相当)	
	7	既存	医療費のお知らせ	【目的】医療費確認のための情報提供 【概要】毎年6月および12月に過去6か月間の医療費状況(全数通知)を医療費のお知らせとして、事業所経由で配付する。	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	事業所担当者の協力により、被保険者へ配付する。	継続	継続	全数通知	
	5	既存	愛けんぼファミリー健康相談	【目的】加入員の健康相談に乗る 【概要】通話料・相談料無料・匿名可 24時間年中無休の健康相談。医師や専門スタッフが対応。電話とメール	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	引き続き委託事業者と契約 受診勧奨や保健指導で利用案内を広報	継続	継続	受診勧奨通知やかぜキャンペーンの案内にチラシを同封 受診勧奨通知：2,500人 かぜキャンペーン：3700世帯	相談件数：1,500件(2.6%)

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1)事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2)実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)	
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム
疾病予防	1	既存 愛健康サポート事業 [Step1]巡回事業所健診	【目的】生活習慣病予防健診の受診率向上 【概要】全被保険者を対象に、生活習慣病を対象とした健診を実施し、現在の身体状況を把握し、生活習慣改善に役立てる。血液検査の種類が充実している他に、オプション検査項目として、胃のバリウム検査、前立腺(PSA)検査がある。 愛知県内を10以上の地区に分け、地区ごとで健診機関と契約を行っている(1地区1健診機関制)。各地区の健診機関は健診の時期が来たら、担当地区の事業所と調整を行い、健診を実施する。この健診を受ければ、[Step2]保健指導、[Step3]再検査、[Step4]受診勧奨の仕組み順番で、事業所は従業員の健康管理ができるようになっている。	被保険者	全て	男女	16 ~ 74	全員	1	オプション検査項目に便潜血2回法を導入する	継続	継続	受診者数：25,000人以上 受診率：84.5%→85%以上 巡回胃健診：5,600人以上 受診率：19.6%→25%以上 前立腺がん健診：2,600人以上 受診率：38.4%→40%以上 再検査：3,500人	有所見者の割合：58%以下
	3	既存 愛健康サポート事業 [Step2]健康支援	【目的】巡回事業所健診後の保健指導利用率向上 【概要】巡回事業所健診後に有所見者に対して、生活習慣改善のための保健指導を実施。巡回事業所健診を実施した同一健診機関が事業所に保健指導を行うように連絡する。対象者リストに基づき、事業所は保健指導を実施する。	被保険者	全て	男女	16 ~ 74	基準対象者	1	巡回健診後に実施	継続	継続	保健指導利用者数：4,200人 利用率：26.1%→30%	有所見者の割合：58%以下
	1	既存 人間ドック、脳健診及びがん健診	【目的】生活習慣病予防健診、がん健診の受診率向上 【概要】個人向け健診として、加入員がいつでも受診できるようにしている。契約健診機関は60以上ある。申込みにより、利用券を発行し、自己負担分を窓口で支払うだけで受診できる。契約健診機関以外でも補助金対応している。補助金額は、7割または21,000円まで補助(どちらか低い方)	被保険者 被扶養者	全て	男女	30 ~ 74	全員	1	契約健診機関の契約を検討 被扶養者に対する受診案内を見やすく改善する	継続	継続	被扶養者への受診案内：10,000人(38%) 人間ドック 被保険者 受診率：15.7%→18% 被扶養者 受診率：4.5%→7% 脳健診 受診率：1.0%→1.5% がん健診 [胃]受診率：31.0%→33.0% [大腸]受診率：56.1%→60% [前立腺]受診率：50.2%→55% [肺]受診率：69.8%→75% [乳がん超音波]受診率：6.4%→10% [乳がんマンモ]受診率：12.9%→15% [子宮頸がん]受診率：12.8%→18%	

## STEP 3 保健事業の実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期 : 平成29年度末)	
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		平成27年度	平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム
	1	既存	共同巡回健診	被保険者 被扶養者	全て	男女	30 ~ 74	全員	1	検査項目の検討を重ねる	継続	継続	被扶養者への受診案内 : 10,000人 (38%)	被扶養者女性受診率 : 20.3%→30% 被保険者女性受診率 : 10.3%→15% 被扶養者男性受診率 : 9.3%→10%
	7	既存	疾病予防薬の無償配付	被保険者	全て	男女	16 ~ 74	全員	1	・平成26年度に実施した常備薬 無償配付で、風邪薬を購入した 人の医療費分析を行う ・アンケートの実施	継続	継続	全被保険者 : 30,000人 (100%)	セルフメディケーションの向上 (配付した常備薬を利用した ことで医療機関へ行かなか った割合) 80%以上
	7	既存	インフルエンザ予防対策	被保険者	全て	男女	0 ~ 64	全員	1	・契約健診機関の契約を検討 ・接種者における重症化予防の効 果検証	継続	継続	全加入員 : 56,000人 (100%)	接種率 : 50%以上
体育 奨励	7	既存	各種施設の利用補助	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	・新規施設との契約促進	継続	継続	全加入員 : 56,000人 (100%)	利用率 4%以上

注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1. 健保組合 2. 事業主が主体で保健事業の一部としても活用 3. 健保組合と事業主との共同事業